

## 炭素 300 号会告から抜粋

2021 年 12 月から 2024 年 11 月まで運用

炭素材料学会の機関誌であります炭素誌は、炭素材料学会の母体である炭素材料研究会の機関誌として 1949 年 11 月に産声を上げました。創刊第 1 号 1 ページ目によりますと、「研究成果を広く江湖に発表すると共に、同学同好の士の研究との交流を図り、洋々たる炭素工業の発展を期する」という炭素材料研究会の目的を遂行するために、炭素誌を発刊することになった旨が記されています。その後、順調に歴史を重ね創刊から 72 年を経て、2021 年 11 月には第 300 号記念誌を発刊いたしました。

一方、学会においては、長い歴史の中で機関誌を 1 次情報である原著論文を掲載する論文誌とするか、学術的には総説などの 2 次情報を中心に掲載するものとするか、という会誌の位置づけに関する問題に加え、学術研究の国際化、出版物の電子化といった流れにいかに対応させるか、という問題が積み重なり、数年に渡って機関誌のあり方についての議論を重ねて参りました。

これを踏まえまして、300 号の節目を機にこれまで炭素誌が担って来た 2 つの役割、「炭素材料学会の会員であるメリットとして情報を会員限定公開の形で提供する」、および「炭素材料に関する優れた知見を所属学会や国内外を問わず集めて広く公開する」を効果的に担うために、炭素誌の役割を分離して炭素材料学会の機関誌を 2 誌体制に移行いたしました。

2022 年 1 月より、和文の「総説」「解説」および、炭素材料学会の会員相互に知らせる情報に関する記事を掲載する雑誌として炭素誌の発刊は継続しながらも、新たに和文および英文の「論文」「速報」「ノート」「総合論文」「技術報告」「資料」、学会賞記念論文、英語の「解説」「総説」を掲載する雑誌として [Carbon Reports](#) 誌を発刊しています。また、このような 2 つの相反する役割をいずれも維持する 2 誌体制を支えるために、苦渋の選択ながら機関誌の基本的な発刊形態を学会メーリングリストを活用して会員への周知効果を確保したうえで、J-STAGE 上における WEB 出版へと移行いたしました。しかしながら、会員向けの情報を掲載する炭素誌につきましては、オンデマンド印刷により冊子体の年間購読やバックナンバー販売の希望者に対応するほか、Carbon Reports 誌では会員による投稿論文の掲載料を無料とするなど、引き続き会員としてのメリットを拡充して参ります。これまで同様に炭素誌をご愛読いただくとともに、和文・英文を問わず、これまで以上に、幅広い分野の炭素材料関連の論文を建設的な査読プロセスにより論文の質をさらに高めて、J-STAGE 上において迅速に出版する雑誌となりました [Carbon Reports](#) 誌へのご投稿をお願い申し上げます。